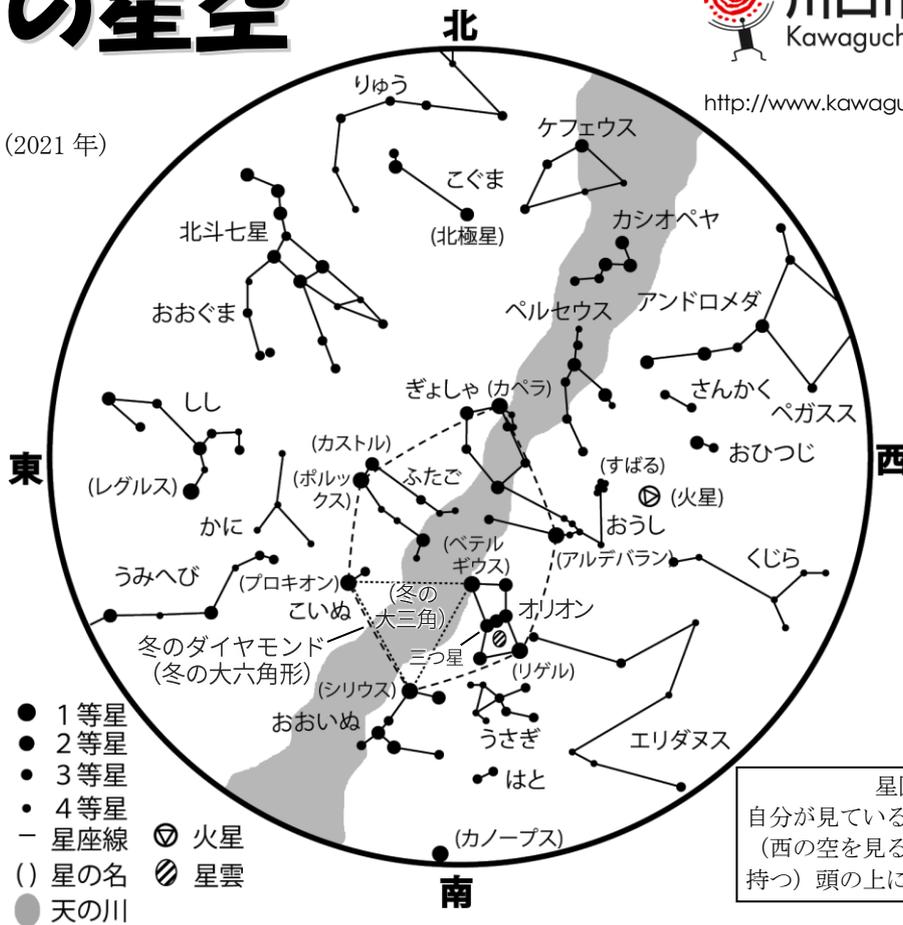


今月の星空

2月 (2021年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



月 齢 ①下弦 5 日、●新月 12 日、②上弦 20 日、○満月 27 日

惑星情報 火星 夜のはじめ頃 南西→西(おひつじ→おうし座 1 等)

★チャレンジ! 冬の星座めぐり

この時期になると、夜のはじめ頃にはオリオン座などの明るい星の多い冬の星座が南の空に昇るようになります。上の星図と下のチェック表を見ながら、実際にどこまで見つけられるかチャレンジしてみましょう! ※見つけたら□欄にチェック✓を入れよう。

- **オリオン座**… 三つ星とそれを囲む4つの明るい星が目印。そのうち、1等星のベテルギウスとリゲルは色を見比べたい。橙色のベテルギウスは、昨年2等まで暗くなって話題となった赤色超巨星。
- **冬の三角形**… ベテルギウスとおおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンをつなぐ。シリウスは、全天一の明るさを誇る1等星。三つ星をつないだ線を伸ばした先に見つかる。
- **冬のダイヤモンド**… 6つの1等星で作る大きな六角形。□プロキオン→□シリウス→□リゲル→□アルデバラン(おうし座)→□カペラ(ぎょしゃ座)→□ポルックス(ふたご座)
- **カノープス(りゅうこつ座)**… 全天2番目の輝星。川口市では、地平線からわずか2°ほどの高さにしかならず、観測が難しい星。見られるとすれば、南側が開けた地平線や水平線が見渡せるような地域に限られる。中国では、「南極老人星」と呼ばれ縁起の良い星とされた。

★今年の節分は2月2日

節分は立春の前日とされているため、立春の日が変われば節分の日も変わります。今年の立春は例年よりも1日早い2月3日です(3日になるのは124年ぶり)。このずれは、地球の公転が関係しています。右図のように、太陽は1年かけて地球のまわりを一周する(360度回る)ように見えます。立春とは、太陽が黄経315度に来る瞬間を含む日と定義され、その時刻は以下のとおり、同じではありません。

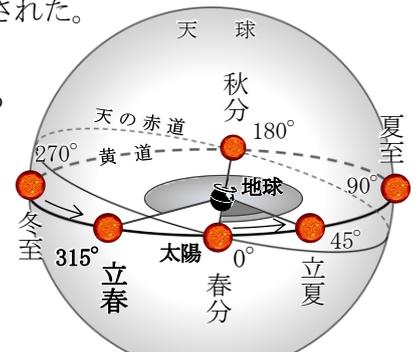


図 太陽の見かけの動きと主な二十四節気

【2019年】2月4日 12時14分 【2020年】2月4日 18時03分

【2021年】2月3日 23時59分 【2022年】2月4日 05時51分

これは地球の公転周期が365日ちょうどではなく、6時間ほどずれているためです。